

自己評価

専攻科の目標	1 国際化、少子高齢化などの社会の変化に適切に対応でき、かつ、感性豊かな時期に「看護のこころ」を養い、実践できる看護のスペシャリストを育てる。 2 看護の役割を認識し、より高度な専門的知識、技術、態度を習得させるとともに課題 解決能力と人間性に根ざした倫理的判断力を養う。 3 地域医療に貢献できる人材を育成する。
重点目標	1 看護の基本的概念を理解し、看護技術に必要な根拠ある知識と倫理的態度を身につけさせる。 2 基礎・基本的な知識や技術を統合し、健康の諸段階にある対象者の個別性に合わせた看護実践力を養う。

2 教育活動に係る事項

(28文科初第35号通知 第1の3関連)

達成状況 ○:十分満足できる状態である ×:改善が必要である(中間期の空欄は今後実施予定)
達成度 A:十分満足できる B:おおむね満足できる C:不十分である

評価項目	取組内容	評価指標	中間期		年度末		次年度への改善	学校関係者評価	
			達成状況	達成度	達成状況	達成度		評価方法	評価
人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> 看護職に求められる素養の理解 地域医療に対する使命感の育成 医療に携わる者としての倫理観の育成 自主的な活動を通して協働観を育成 	<ul style="list-style-type: none"> 看護職への理解を深めるような機会がある 地域医療の現状を知る機会がある 倫理観を育成するための機会がある 自治会組織があり定期的な活動が行われている 	○	A	○	A	地元医療機関での実習および医療関係者による講演、演技実習などを通じて知識・技術を習得し、倫理観を育成することができた。また、看護就職フェア、キッズマニワークなど看護知識をもとにしたボランティアにも積極的に参加した。次年度もこれらの取り組みを更に充実させていく必要がある。	学校要覧 行事予定 学校自己評価	本校での各取組や実習を通じて人間性を育成する教育が的確に行われており、看護師としての倫理観を十分に養っている。
授業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある授業の実施 知識・技能の定着 思考力・判断力・表現力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある授業が行われている 各科目シラバスに基づいた授業が行われている 知識・技能の定着を図るための工夫がある 発問等に思考力・判断力・表現力等を育成するための工夫がある 	○	A	○	A	すべての授業においてシラバスに基づき、計画的に実施されている。ICT機器を用いた授業実践など知識技能の定着に努めると共にグループ学習を取り入れながら表現力を養う工夫を行った。次年度以降もさらに授業改善を進めていきたい。	教育課程 シラバス 授業観察	シラバスに基づき適正に授業が行われ、着実に学力を付けている。確実に基礎学力を付けていくことが大切であり、その結果が国家試験の合格へと繋がっていく。
臨地実習の状況	<ul style="list-style-type: none"> 「臨地実習要項」に基づいた計画的な実習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設が十分確保されている 実習期間が適切に配置されている 実習施設と綿密な打合せが行われている 指導体制が適切である(課題・記録の提出 カンファレンスの実施 等) 補充実習が適切に行われている 危機(院内感染対策 実習中の事故等)に対応した管理体制(予防接種・緊急連絡方法等)が整っている 	○	A	○	A	すべての実習に関して「臨地実習の手引き」をもとに計画的に遺漏なく実習を行うことができた。今年度から実習病院の拡大ができ、更に充実した実習が行えるようになった。今後小児看護の学童期における実習を充実させるために地元小学校とも連携していきたい。	臨地実習の手引き ヒアリング 関係資料	実習病院と十分な連携を図りながら指導がなされており、成果が上がっている。
進路状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療に貢献できる看護師の育成 個の能力に応じた進学指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地元医療施設の就職説明会を実施している 地元医療施設へ就職している 個の希望に応じて高度医療に対応できる人材育成のための進路指導ができています 資格取得(国家試験)に向けての指導が適切に行われている 助産師・保健師等への進路指導が適切に行われている 進学(大学編入学)に向けての指導が適切に行われている 	○	A	○	A	本年度は地元医療機関に4名の就職が内定している。今後さらに地元医療機関への就職者が増えるよう指導していきたい。本年度は上級学校への進学希望者や大学への編入学希望者はいなかったが、次年度以降も進学希望者には早期に対応していく必要がある。看護師国家試験の受験に向けて授業における受験指導はもとより、個別指導などを丁寧に行い、学力を伸ばすことができた。	過去3年間の進路状況 ヒアリング 学校自己評価	国家試験の受験に必要な学力を醸成することができており、就職指導、進学指導ともに適正に行われている。本年度は大学編入学志望者はいなかったが、今後大学が求める生徒像や入試の内容等を直接大学に問い合わせたり、オープンキャンパスに参加するなどして、しっかり情報を収集しておく必要がある。また、編入学を希望する生徒には大学卒業後どのような進路を目指すのか、どのような資格を取りたいのかをしっかりと考えさせておかなければならない。